

第3部「詳報・建設トプランナーフォーラム」

トプランナー

2007

2000年2月に世界的評価の高い環境管理林業認証(FSC認証)を日本で初めて取得した。21世紀を環境の世紀と位置付け、林業は「環境に優しい仕事」と説く。

01年4月には、第2回朝日新聞「明日への環境賞」森林文化特別賞を受賞。現在、日本林業経営者協会会長、環境省中央環境審議会臨時委員、国土交通省国土審議会計画部

会専門委員、三重県森林審議会委員などを歴任している。自治体の森林管理は疑問—

講演では、「森林問題はさまざまな形で話題になるが、本質が正確に伝えられていないのが実情」と話した。「地に優しい仕事」ということが分

方自治体に森林管理を話せば話すほど矮小(わいしょう)化されてしまう。地球環境と森林問題は密接に関係しているという視点での議論がほとんど取られていない」と指摘。

県など地方自治体が進める森林管理の在り方に疑問を投げ掛ける。

「20世紀後半、公害問題が噴出した後に環境問題が指摘され始めたが、世界中(日本含む)が次のステップに踏み出せていない」と足踏みしている環境対策を嘆く。森林の存在が地球環境を守っている例を挙げ、「人類は大きな環境破壊をしてしまった。森林管理を考えると、林業は環境に優しい仕事ということが分

5 特別講演 日本林業経営者協会会長・速水林業代表 速水亨氏

かる」と持論を展開した。

「人間は、自然に対して与えてきたダメージについて謙虚に反省しないと、さまざまな環境対策の本意が理解されないまま、いたずらに時が流れてしまう」と、自治体などが行う森林管理が自己満足に終わってしまうと危惧(きん)する。

「酸化炭素を閉じ込める役割がぐには、誰でも気軽に森に入れる状態を作り出すことが必要とした上で、「世界の森林管理は、経済性と社会性に加え、生物生態系や環境保全に配慮した『持続的な森林経営』の方向に向かう」と力説した。

また、木は、水分を吸収するため結露が発生しにくく、建築物に使用する加工材も二通称がつけられたりする。このような状況では、消費者どころか建築専門家までもが木材の本当の性質を知らずに使っていることも珍しくない」と、不適当な木材流通や使用状況に苦言を呈した。

「短絡的に広葉樹を植えるという発想ではなく、人工林をいかに適切に管理し、良質な木材を供給していくかが大事」と強調した。

「木材流通や使用状況に苦言— 建築物の構造体の観点からは、スギやヒノキの耐久性はホワイトウッドに比べ非常に高い」とし、コンクリートと比較した場合、木は組織自体に空隙(くうげき)を持つため熱を伝えにくく、室内の温度

速水氏は、人類の活動が活発になった8000年前に比べ、原生林が30%以下にまで減ったことを挙げ、「世界的に見ると、森林破壊は貧困の引き金であり、森林を守ることで貧困を撲滅することになる」と、人類がかかわるさまざまな森林への悪影響を指摘。世界的視野で、適切に森林を管理することが環境破壊の歯止めになると訴えた。



「森林破壊は貧困の引き金になる」と警鐘を鳴らす速水林業(三重県)の速水亨氏

【速水亨氏のプロフィール】慶大法学部を卒業後、東大農学部林学科研究生として硫酸化合物が森林生産に与える影響を研究。国連大学主催のシンポジウムのパネラー、同大学主催のフォーラムの基調講演を行う。

次世代に健全な森林を引き継ぎ、世界的視野で、適切に森林を管理することが環境破壊の歯止めになると訴えた。(建設新聞社/長崎 福野伸一郎) ※毎週火・木曜に掲載

「持続的な森林経営」の方向へ